

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1358号 平成31年4月15日

4 月 号

衝撃！門跡寺院に乗っ取り屋の魔手が.....	本紙編集部.....	1
米朝会談の裏で動いていた中共.....		2
中共解放軍はAI兵器を開発中.....		2
優秀な韓国の若者を日本に呼び込む利益・不利益.....		3
読者寄稿 民衆と英雄について考える.....		4
花は散るからこそ美しい.....		5
ローカルニュース・尼崎城新築完成.....		6

本 社 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 2-5-24-103
電話・FAX (03)5313-0215
賛助購読料 年額 3,000円（年10回発行）
ホームページ [http:// 大日本生産党.com/](http://大日本生産党.com/)

発 行 所
中 央 情 報 通 信 社
主幹・編集長／谷 田 透

衝撃！ 門跡寺院に乗っ取り屋の魔手が… 本紙編集部

滋賀県大津市にある園城寺は通称「三井寺」と呼ばれ、昔から皇族が僧籍になって天台宗の教えを守っている名刹である。これを門跡寺院と言ひ、格別の権威を持つ。

また「三井の晩鐘」は近江八景の中でも、誰もが知る由緒ある風景として広く知られている。

この園城寺に隣接する寺院が「圓滿院」である。ここは園城寺の別院として一〇三一年の歴史を有し、本殿は重要文化財であり、天皇をお迎えするための上座敷があるため、菊の御紋を許されている（写真）。

この「圓滿院」が有名な乗っ取り組織「小泉グループ」に二十年がかりで乗っ取られた。京都新聞やNHK「クローズアップ現代」など、この事件を取り上げたが、事件の闇が深く、マスコミでは追及しきれていない。

事件概要を説明すると、「圓滿院」の元住職が小泉グループに籠絡されたことから始まり、悪徳弁護士を使って宗教法人に入り込まれて支配され、前住職は追放されて小泉グループの若い衆が寺院に



居座り、寺院敷地は五十億円以上の担保に入れられてしまった。当然、宗教法人では返済不能なので競売にかけられた。菊の御紋を許されている重要文化財の寺院が、しかも天皇が休息するための座敷を持つ寺院が、裁判所から競売にかけられたのである。

落札したのは、滋賀県水口町にある「大岡寺（だいかうじ）」であるが、これも事前に小泉グループに乗っ取られていた寺院である。

大岡寺の住職は高齢で病弱だったのを狙われ、本尊の重要文化財である阿弥陀如来像や不動明王像も小泉グループに盗み出され、東京の安楽寺に売り飛ばされた。安楽寺が文化庁に重要文化財の登録変更を申請して発覚したのだが、すでに大岡寺は小泉グループに

よって切り刻んで売り飛ばされていた。その宗教法人大岡寺の名前を使って「圓滿院」を転がしていたのである。

小泉グループは京都市内に「宗教法人圓滿院京都事務所」を作り、ここで企業経営の体制を取っている。札幌にはビルのフロアに納骨式仏壇を経営する「圓滿堂」を作り、伊豆には圓滿院霊園まで計画している。

「圓滿院」にはホテルのような宿坊があり、小泉グループの客を東京などから呼んでいるという。また納骨式仏壇がある建物の二階は、不動明王を祀る護摩壇が備えられている。筆者が訪問した時には、納骨堂のペンキ塗り替えをしていたが、山門の一部は瓦が崩れたまま放置され、重要文化財の本殿にも雨漏りがしているとのことだった。その一方で、寺院正面には新品の菊の御紋の幕を張り、売店では皇室カレンダーを販売して、いかにも皇室とご縁の深い門跡寺院を演出しているのである。このような商売方法がいかに詐欺師的な一面をよく表わしている。

既に詐欺師、乗っ取り屋に食い物にされている「圓滿院」を、天台宗の本山はなぜ放置しているのか。それに、皇室と深い縁のある門跡寺院という格式を汚されている園城寺（三井寺）も、なぜこれを放置しているのか。どうやら闇が深すぎて手を突っ込めないことと、「圓滿院」を使って転がしている金額が余りにも莫大だという理由が考えられるが、何より政治家も愛国運動家もこの件を詳しく知らぬため動かないということが理由のようだ。

平成時代の悪い記憶として、この問題は我々も政治家も手を取り合って解決に向けた対処をしようではないか。願わくは令和の時代は、皇室に係る寺院を食い物にして金儲けするような悪質な日本人が居なくなるよう、心新たに取り組みたいものである。

米朝会談の裏で動いていた中共

アメリカに住む知人からの情報では、中共国家安全部から北京のアメリカ大使館に「金正恩のDNAを含む生体データ」なるものが、ベトナムでの米朝会談前に持ち込まれたそうである。事実かどうか分らないが、あっても不思議ではない。

トランプ大統領はこの事実を、金正恩にそつと告げたそうである。「君は中国に裏切られているから注意しなさい」と親切を装ったそうだが、アメリカの外交の恐ろしさを表わすものだ。

中共では、アメリカに少しでも「貸し」を作りたいのだが、アメリカは「借り」に感じてくれないのでジレンマを感じている。北朝鮮に関しては、表面上は「保証人」を演じつつ、その裏で「勝手」はことはさせない」という宗主国の立場を崩していない。



これは、アメリカにとっての北朝鮮開放戦略に大きな意味を持っている。日本に対して戦後GHQが行なった政策を活用できる自信を持たせている。「金」一族の威厳を保証する」ことが最終的な和解条件となるからだ。宗主国を気取っている中国なのか、ガキ大将のアメリカなのかという二者択一以外の道を選択したい北朝鮮にとっては、もう日本とロシアしか残っていないようだ。

中国経済は米中貿易戦争のためにガタガタに落ち込み、年末の段階で四千万人もの失業者を生み出している。その失業者を吸収する受け皿もなく、共産党政府の無能と無策に国民は呆れている。つまり、中共政権は人民から見離される瀬戸際にいる。何らかの手を打たねばならないと必死である。

北朝鮮では、アメリカ政府の助言を取り入れて、中共を徹底的に困らせる戦術になっている

既に「五千万国民の災厄」と国内で呼ばれ始めた韓国文在寅政権を含め、朝鮮半島は変革期のカーブに差し掛かっている。ハンドル操作を誤ればそのまま崖下に落下するだろう。我が国はどうするべきかを、我々国民も安物メディア報道に振り回されることなく真面目に考えたいものである。

中共解放軍はAI兵器を開発中

中共のAI兵器は織り込み済みだと言う読者は多いだろうが、先日の情報では、現在世界最高水準まで能力を高めている中国の「顔認証システム」は、新型AI兵器の為だったとのこと。

顔認証が完璧に出来る水準までシステムが改良され、膨大なデータを瞬時に解析できるコンピュータも準備され、後は瞬時の判断を的確に行なえる人工知能(AI)だけが求められていた。それらが揃えば、中共は国家安全部が国内治安を、解放軍が侵略戦争を担当すると豪語していた。それが既に実験段階に入ったそうだ。

要するに「超小型自律式飛行兵器」と呼ばれるもので、カブトムシのような暗殺兵器が顔認証のAIを装備して、殺すべき相手を探し回っ

て目的を達成するというものの。数万もの暗殺カブトムシが一気に放出され、どれかが目的達成すれば帰還する。

中国国内では治安対策に使うが、アメリカや日本へ貨物で大使館などに持ち込み、暗殺するべき対象が確定したら一気に放出するとしている。



無人潜水艦「海翼」

暗殺用に何を搭載するかとか、飛行時間は何時間とかは分からない。ただ、イスラム国の兵士を暗殺するためにロシアが使用した「戦闘ロボット」のような大掛かりな戦争兵器ではない。超小型の、数年後にはプラモデルとして売

り出されそうな兵器だ。

我が国は能天気なことに、いまだに核ミサイルの脅威をマスコミを使って煽り、「安保屋」と呼ばれる業界とアメリカ軍産複合体を喜ばせている。いまや時代は一気に進んでいるというのに。「大艦巨砲主義」で敗北した昭和の歴史を忘れてはならない。

宮本武蔵は「五輪の書」の中で、戦う前に相

優秀な韓国の若者を日本に呼び込む利益・不利益

韓国は文在寅政権になってから迷走が止まらない。政治も経済も、かつてないほど沈下が激しい。アメリカからも中国からも見離されつつある現状、それでも韓国人は生き抜かなければならないので、政府を無視して「民間政治」をしなければならなくなっている。

韓国人は遺伝子的に日本が嫌いである。古くは神代の昔から、常に半島の民族国家の内戦に日本が関与し、武力で痛い目にあわされてきた。白村江の戦いだけが、日本をコテンパンにやっつけた栄光の記憶らしい。それ以降は、昭和二十年八月十五日に「解放」されるまで、延べ数千年の隷属の記憶しかないようだ。

同じように隷属させられていても、大陸国家に対してはあからさまな嫌悪感を持つていない。それでも、大陸の民族に対しては、日本民族の何倍も嫌悪感を持つているというから面白い。三韓時代から高句麗・百濟・新羅の時代を経て、高麗や朝鮮の時代になっても、常に助けてくれたのは日本の民衆の力だったことは、いびつな形ではあるが韓国人の遺伝子には入っている。

さて、その韓国では今、一流大学を卒業しても大企業の正社員になれるのは四〇%ほどにまで求人状況は悪化している。優秀な若者が、一流大学を卒業してもバイトや臨時社員に甘んじて、ソウルなどでは家賃も満足に払えないので、ルームシェアして暮らしている若者の比率が高まっている。結婚など、都会では夢物語になるうとしている。

韓国で「反日」に思想が凝り固まっている世代は、平均してソウルオリンピック（一九八八年）の前年に大規模な反政府・反米・反日・反軍のデモを繰り広げた「ユートピア的チュチェ思想主義」の左翼青年の成れの果ての世代だ。ちようど、文在寅大統領たちの仲間の世代であり、思想的なリーダーだったのが金大中だった。

手から戦闘意欲を削ぐことが勝利の近道だと説いているが、まさしく情報戦や思想戦を駆使して、相手を腰砕けにすることを優先する中共に我々は先手を取られてしまっている。武蔵は「枕を抑える」ことが有効だと説いているが、これは相手が起き上がる前に枕許で坐っていれば勝てることを意味している。日本は安全保障に関して、改めて宮本武蔵を勉強するべきだろう。

三代続いた長期軍事政権に嫌気がさした国民は、自由と民主を求めて軍人以外の金泳三大統領を選んだ。彼は軍からの締め付けに泣かされ、神戸市に居た叔母さんの所へよく逃げてきていたそうである。その叔母さんが通っていた歯科で昔聞いた話である。

この腰の弱い金泳三大統領は「大統領は韓国憲法の上位にある」などと訳の解らないことを宣言して、過去の大統領の犯罪を捏造する法改正までして、韓国建国の精神を歪めた。

それを目一杯利用したのが金大中大統領で、韓国憲法が禁じた北朝鮮への渡航だけでなく友好条約調印まで行ない、「大統領は憲法に縛られない」とぬけぬけと言い放った。

韓国の軍隊では、敬礼する時に「忠誠」と号令をかける規則があるが、それは近代韓国の建国の理念と祖国に忠誠を誓う意味合いのもので、間違っても大統領に忠誠を誓うものではない。それなのに一部の「日和見軍人」は、青瓦台（大統領府）に忠誠を誓うのが公務員たる軍人の務めだなどと言い出した。

韓国軍隊内部では、既に「忠誠」を巡って対立が起きている。徴兵制の国なので、若者は二、三年の兵役を嫌々ながらも務めている。一流大学に行っていて兵役免除や先送りになっていた若者たちは、今の韓国軍に正義を感じないので行きたくない。さりとて大企業に正社員の就職口も無い。そうなれば、韓国から日本へ移住したいと思う若者も増えてくる。

韓国の若者に限らず、今のアジアの若者たち全般は日本アニメで育っている。人情深い勧善



韓国の若者もあこがれる日本の漫画文化

懲悪の主人公が活躍し、愛と絆でハッピーエンドを迎える日本アニメは、韓国の若者の遺伝的性格の上書きを確実にしたのである。

年長者に対して「オー（はい）」しか言えない韓国社会の古いしきたりに嫌気がさしているのも日本アニメ世代で、これは恰度アメリカナイズされた日常を普通に感じるようになった昭和四十年代の日本の若者に共通する。韓国の若者は、この世代の日本人（現在の五十代）と変化の様相が似ている。

現在の我が国政府の政策では、国内の企業が「優秀な韓国大学生を採用する」ことを解禁する流れになっている。中国人留学生をコンビニ

読者
寄稿

民衆と英雄について考える



民衆は何を考えたののように動くものか。英雄は自然発生するものか。統治者にとって、何が望ましいことであり、何が許せないことなのか。また、政治は、社会は、大きなうねりをコントロールする必要性をどこで感じるのか——そんなことのヒントが、兵庫県立美術館で開催された「昭和平成のヒーロー&ヒーポ展」に有った。

我々が意識しておかねばならない問題は、「我々」という本質である。ある時は体制側につき、ある時は反体制側につく「国民・民衆」とは、我々そのもので良いのかどうか。統治者側は、時に「国民・大衆」を指して「全てが同じく尊い存在」であると表現するが、気に入らなければ「指導・抑圧・逮捕」さえ平然と行なう。統治者側が「社会の基幹」だと見ているのは、要するに「善良でものわかりが良く従順な民衆」だけなのであり、その民衆が時により情勢に流されて牙をむけば、途端に叩きのめす対象に早変わりする。不変の民衆があり得ないように、民衆は時に神となり、時に悪魔になるのである。

我々が、この禍ぬえのような存在のまま、どんなアイデンティティを持って何世代も生き続けてきたのかは、その時代に応じた英雄像・ヒーローを願望する心理で説明するしかないだろう。

例えば「制服」を見れば、所属・階層・階級・性質などがひと目でわかるようになっていく。それをアイデンティティの根拠として、嬉々として制服を身に着ける者もいれば、反対に、その制服を強制されることによって懲罰的な屈辱

やホステスに雇う話とはだいぶ違う。

アジア全般的に、韓国人は評判が悪い。それは恰度、反日世代の連中が原因となっているもので、国内的には「漢江の奇跡」から必死で国づくりを励んだオヤジ世代だ。それらは儒教の悪しき部分だけを身につけた連中で、それらの孫世代が今の若者なのだ。

「韓国人はダメ」ではなく「悪い韓国人はダメ」なのである。無論同様に「悪い日本人もダメ」なのが、正しい観点ではないだろうか。

さて今後、韓国人の就職難民の若者たちを日本企業が、日本社会が受け入れるのかどうか、これからの時間経過を見て行きたい。

を感じる者もいる。制服とは、統治者側にとっては、民衆を分類する上での欠かせない道具となっている。制服に意味合いを持たせることこそ、イデオロギーなのである。

時代・社会情勢の変化は、民衆が制服に抱く感情で見えてくる。もし制服が社会から全廃されることになれば、その社会には「規律」という統治がなくなっているのかもしれない。



読者の諸兄も、子どもの頃から順を追って思いつけば、数多くのヒーローが存在したはずだ。我々の何世代も前から、ヒーローは心の中に存在していたはずだ。街中にヒーローがいたかもしれないし、国家的な実在のヒーローが居たかもしれない。統治者側に作画的に生み出された「詐欺的ヒーロー」も当然居ただろう。見る側の違いによって、桃太郎は「正義の味方」なのか「鬼ヶ島へ略奪に行った」のか判断は分かれる。価値観の違いはどこから来るのか。我々はその時、どちらの側にいるのか。

琉球王朝の面白い話だが、その昔、平和に平等に暮らしていた琉球に、三つの王朝が誕生し、それらが争って統一王朝が誕生する。そうすると民衆が身分を付けて分けられ、大陸からの間接支配も重なって、貧しい身分に固定された民衆は塗炭の苦しみが続けていたという。そんな時、薩摩が砂糖と南蛮貿易拠点を求めて琉球に攻め込んだ。王朝では頼りにしていた清国が救援さえせず、貧しい民衆は薩摩を解放軍だと歓

迎し、琉球はあつと言つ間に薩摩藩の領地になった。だが、貧しい民衆は以前に増して砂糖を作らされたので、昔の方がましだったと言いながら暮らした——という話がある。これが事実かどうかの問題ではなく、民衆の中に社会が生まれ、そこに統治者が生まれ、規律や道徳的観念が生まれ、民衆はその資質や縁故により上下に分けられる。そうなれば、故あって下層民にされた民衆は、まだ見ぬ極楽や仏を願望するのが一連の流れになるということが重要なのである。

関西の表現で「見たことのない仏様より、馴染んだ鬼の方が優しい」という言い回しがある。教訓的で世俗的かもしれないが、言い換えれば「夢も希望もない」という厭世的な響きになる。

ヒーローは民衆だけが憧れ待望したのでろうか。統治者側にとつても都合の良いヒーローは存在するはずであり、そのヒーローに対しては、国家的社会的な高評価を付与するはずだ。若者たちが「統治者に都合の良いヒーロー」に憧れてくれたら、規律や道徳もやりやすい。

日本人は桜が好きである。それは、美しい盛りに惜しまれながら散るからである。

「始まりのあるものには必ず終わりがある」というのは不変の真理であり、それが日本人の人生観や宗教観と一致している。

咲いた花が永久に枯れないことを願うような、姑息な欧米の経済至上主義とは明らかに異なっている。日本人には、桜に代表される無常観や栄枯盛衰を自身に重ね合わせて涙することの出来る細やかさが蓄積されている。島国だからかどうかは分からないが、日本に流れ着いた多くの人々も、そんな民族性を共有している。

永久に散らない花を求める人々は、他国の資源を自分のものにしようとする。その「自分」とは何なのかを突き詰めることもせず、時の勢いに流されて、対立や戦争さえ求め正当化する。宗教でも、己の信ずる神が永遠であると強弁し正当化するために侵略が進められる。全てが儚いものなら、国家も神も儚いもののはずである。我々日本人には、その「もののあはれ」が理解できる。

新自由主義とかグローバル社会と言われて久

反体制のヒーローや悪のヒーローが人気を博せば、不安定な政権なら絶対に座視することは無い。そんなヒーローが許されるのは、世の中が政治が安定している所に限られる。民衆心理は軽佻浮薄で烏合の衆になりやすい。つまり、流行や洗脳に極めて弱い傾向がある。これが「我々」の本質の一部にあるのは間違いないだろう。



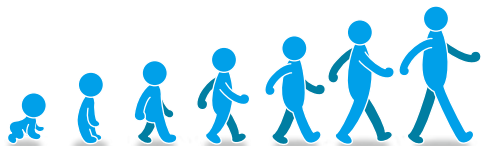
紛れもなく時代のヒーローだったヒトラー

兵庫県立美術館で開催された「昭和平成のヒーロー&ピーポー展」からは、相当に哲学的な示唆を受ける来館者は居ただろうが、自分自身が「ピーポー」だと自覚した人の中で、果たしてそれが統治者がコントロールするべき「力の源泉」だと理解した人がどれだけ居たかは謎である。

しいが、それは何を目指してのものなのか、誰も説明してくれない。自分に、自分たちに有利なことが原点なら、桜に感動し涙する感性とは相容れないだろう。

筆者はよく知らないが、我々はホモサピエンスという人類だそう。それ以前にはネアンデルタールとかクロマニヨンとか言う人類がいたそう。人類というのは一系統だけでなく、ホモサピエンス以前の人類は滅び去ったらしい。選民思想の宗教観では、決して許されない学問だろう。だが「始まりのあるものには必ず終わりがある」と理解できる柔軟性があれば、進化論も怖くない。

現在、シリアのゴラン高原の領有権を巡ってイスラエルが「自国の安全保障のため」と強弁して武力支配しているが、領土の安全というのは国民の安全と重なっているから話がややこしい。



現在我が国の「固有の領土」である北方領土を見ると、それ以前にはアイヌやオロチョンなどの原住民が暮らす土地だったのは共通認識だが、ロシア帝国が極東を支配するために出てきた時、慌てて江戸幕府が領土宣言したことが記録されている。当時の北海道や北方領土の住民たちは、交易は日本としていたが、年貢は清朝の北方支配者に納めていたと言われている。元々の支配者や所有者を今さら論うことは無意味だが、分かっている範囲の歴史は知っておきたい。

原住民と呼ばれているアイヌだが、古くは東北方の支配民族である蝦夷（エミシ）だったものが、大和朝廷との戦いで追いやられ、とうとう海を渡って領土を安定させていたものだ。ではエミシ以前に北海道にいたコロボツクルなどはどうなったのか？ アメリカ大陸の話を取り

ローカル ニュース ニ崎城新築完成

平成の最後になって、明治維新で焼き物に売り飛ばされたお城が復活する慶事があった。

尼崎城は「大阪夏の陣」直後から、徳川幕府が西国大名の御目付用に建てた城である。甲子園球場の三・五倍という広さの敷地に、三重の堀と四層の天守を持つ規模の城で、尼崎を八地域に分割して二万人を住ませた都市計画の拠点でもあった。

城主は、戸田、青山、松平と変遷したが、最も名君として名高いのは青山の殿様であろう。青山時代には、尼崎藩の領地は神戸市にまで及んでおり、領地のはずれにあった「楠木



正成公の墓」を手厚く祀れと命令し、毎月のお下げ渡し金を出し、それが北風家の居候だった当時の伊藤博文を感動させ、後に別格官幣社湊川神社の創建に結びついた。

だが明治維新となり、尼崎城は陸軍施設になった。それが明治六年、廃城令により大蔵省の売却物となって焼き物にされ売り飛ばされた。石垣も、港湾埋め立て用として海に沈められ、あわれ尼崎城は跡形もなく消滅した。

戦後になり、尼崎ではシンボルを求める市民

上げるまでもなく、人類の歴史は「最後に支配した者の所有になる」という力学なのだ。

我々が世界を見る時に、政治的な宣伝や洗脳に振り回されることなく、「始まりのあるものには必ず終わりがある」と考え、花の盛りに惜しまれて散る桜の姿を思い浮かべたいものだ。それが、世界のあり方として立派なものだろう。

NASAによると太陽の活動は十万年後には終わると見ており、すると地球表面の生命活動は五万年後には終了する。泣いても笑っても、我々はあと五万年しか文明を謳歌できないことになる。その時、桜のように見事な最後を送れるだろうか。花は散るからこそ美しいと大悟の辞世を迎えるか、火星に移住するための選民政府を初めて世界が一つになって形成するのか、それは五万年後の人類が決めることだろう。

の声が強くなった。しかし、戦後復興の真っ只中で尼崎市は工業の町としてのし上がってきた。当然、環境の悪化は凄まじく、神奈川県の京浜工業地帯、三重県の四日市工業地帯と並んで、阪神工業地帯という「公害都市」「小児喘息の町」「小鳥が飛ばない町」「魚の住めない河」の代表的三代地域に指定された。それは大阪万博が終わる頃まで続いていたが、昭和五十年代になり、やっと国民意識が変化してきたのである。

平成二十七年になり、ミドリ電化（現エディオン）の創業者が私費十億円を出し、尼崎市やライオンズクラブなどの民間団体にも呼びかけ、江戸時代の尼崎城の図面を基に天守の再建に取り組むことになった。

鉄筋コンクリートのお城だが、新築のお城というものは全国的に珍しい。一般公開は三月から始まっており、阪神電車の尼崎駅からも徒歩三分の近さである。天守の入場料は五〇〇円要るが、一度お出かけ頂き新築の城を体感されたらいい。

地方本部活動報告

■関西本部

◇四月十二日（金）

・午後六時半より、尼崎市内において「むすびの集い」勉強会。党員、有志計七名が出席。資料は、「圓滿院乗っ取り事件」ほか。